

## 第5章 特定健康診査・特定保健指導の状況

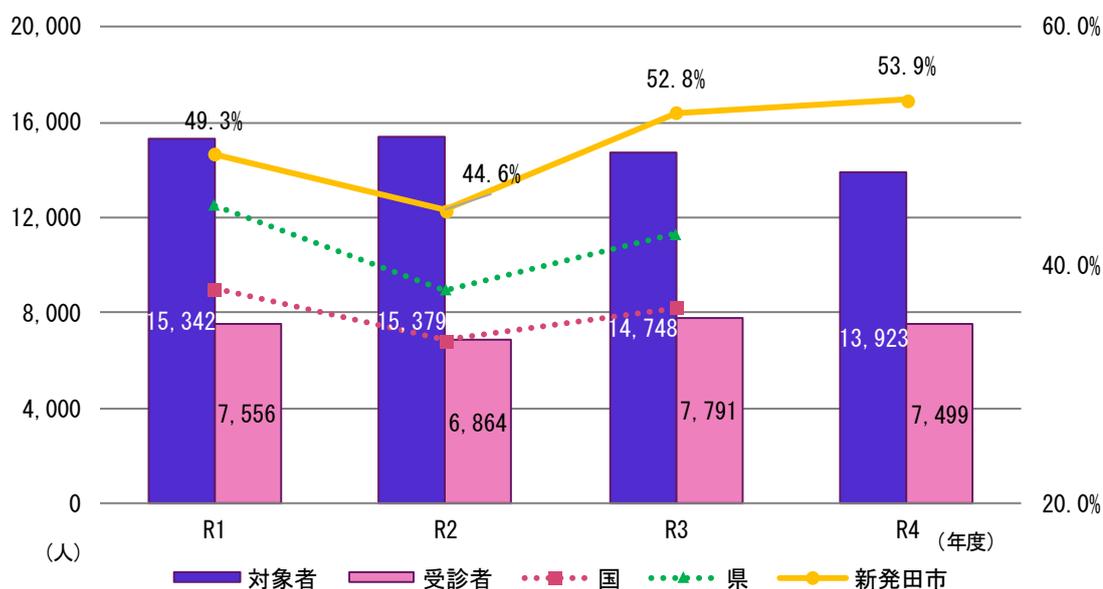
### 1 特定健康診査の状況

#### (1) 特定健康診査の受診率

- ・令和3年度以降、市の特定健診受診率は5割超と向上しており、県、国に比べても高い割合で推移しているが、すべての年度で目標値に達していない。(図表28)
- ・年齢別・男女別の市の特定健診受診率は、年齢が上がるにつれて受診率も高くなり、どの年代においても男性よりも女性の受診率が高くなっている。(図表29)

【図表28】市国保被保険者の特定健診受診率の推移

(出典：特定健診等データ管理システム「特定健診・特定保健指導実施結果総括表」R1～R4年度、新潟県「特定健診・特定保健指導実施状況」R1～R3年度、厚生労働省「特定健康診査・特定保健指導の実施状況」R1～R3年度)



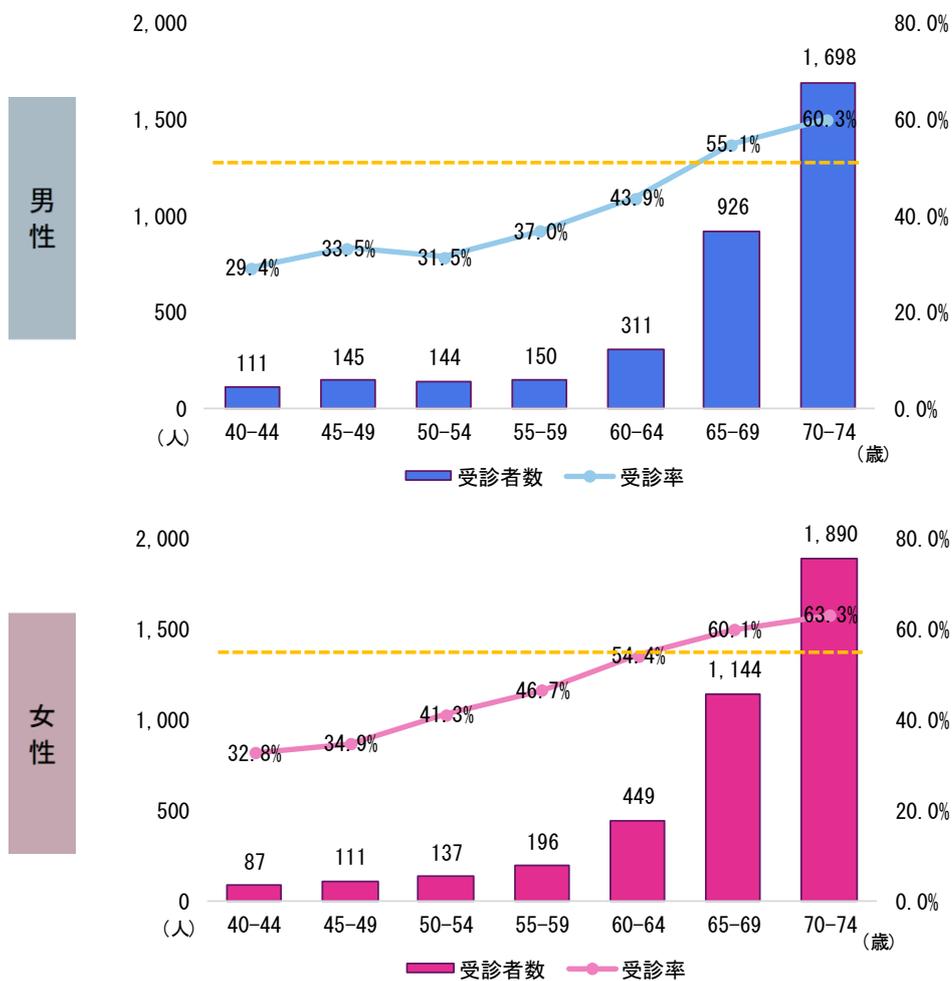
		R1	R2	R3	R4
対象者数 (人)		15,342	15,379	14,748	13,923
受診者数 (人)		7,556	6,864	7,791	7,499
受診率	国	38.0%	33.7%	36.4%	
	県	45.0%	37.9%	42.6%	
	新発田市	49.3%	44.6%	52.8%	53.9%
	(市目標)	52.0%	54.0%	56.0%	58.0%

※令和4年度の県・国の受診率は未公表

【図表 29】市国保被保険者の特定健診受診率（年齢別・男女別）

（出典：特定健診等データ管理システム「特定健診・特定保健指導実施結果総括表」

R4 年度）

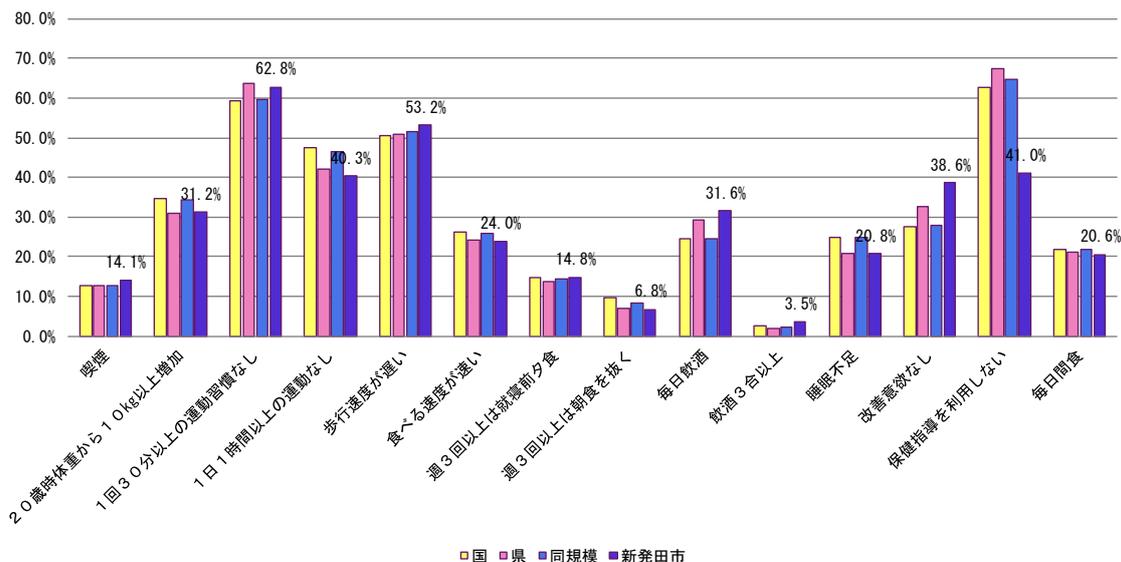


(2) 特定健診時「標準的な質問票」の回答状況

- ・「毎日飲酒」、「喫煙」、「歩行速度が遅い」において、市が同規模自治体、県、国を上回っている。
- ・同規模自治体、県、国に比べて、市では「改善意欲なし」の回答が突出して多い。

【図表 30】市国保特定健診時「標準的な質問票」の回答状況

(出典：国保データベース (KDB) システム 帳票 S25\_001 R4 年度)



	喫煙	20歳時体重から10kg以上増加	1回30分以上の運動習慣なし	1日1時間以上運動なし	歩行速度が遅い	食べる速度が遅い	週3回以上就寝前夕食	週3回以上朝食を抜く	毎日飲酒	3合以上	睡眠不足	改善意欲なし	保健指導利用しない	間食毎日
国	12.7%	34.6%	59.3%	47.5%	50.4%	26.4%	14.7%	9.7%	24.6%	2.5%	24.9%	27.5%	62.7%	21.7%
県	12.7%	30.8%	63.9%	42.2%	50.9%	24.2%	13.9%	7.1%	29.4%	1.8%	20.9%	32.7%	67.3%	21.2%
同規模	12.7%	34.5%	59.7%	46.5%	51.5%	25.8%	14.4%	8.4%	24.4%	2.3%	25.0%	27.9%	64.6%	21.7%
新潟市	14.1%	31.2%	62.8%	40.3%	53.2%	24.0%	14.8%	6.8%	31.6%	3.5%	20.8%	38.6%	※ 41.0%	20.6%

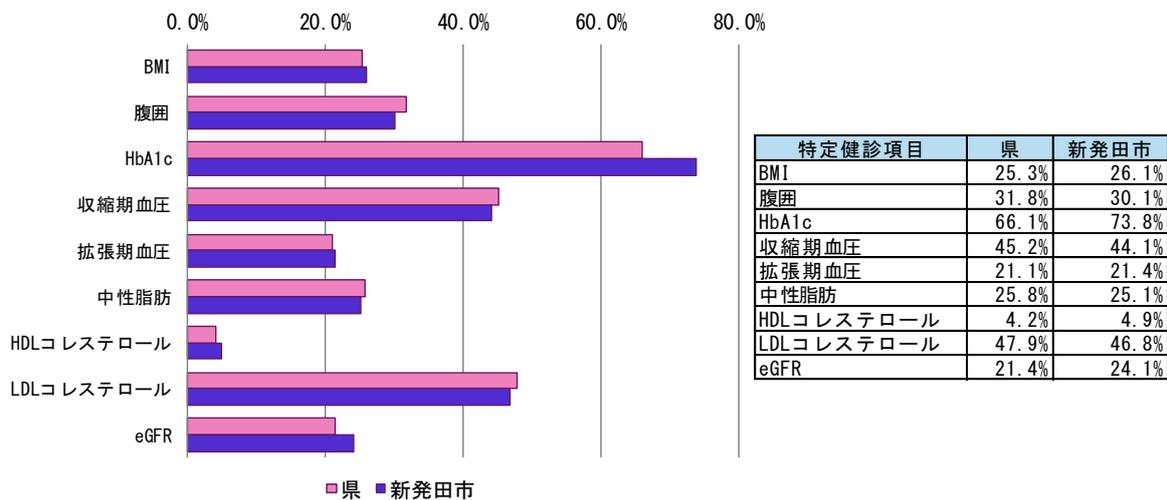
※市特定健診時の質問票には保健指導の利用意向に係る質問を削除しているため、「保健指導を利用しない」が低くなっている。(市数値は人間ドック受診者のもの。)

(3) 有所見の状況

・市の有所見状況は、「HbA1c」、「eGFR」、「BMI」、「HDL コレステロール」、「拡張期血圧」の値が県に比べて高くなっている。

【図表 31】市国保被保険者の特定健診結果有所見の状況

(出典：国保データベース (KDB) システム 帳票 S21\_024 R4 年度)

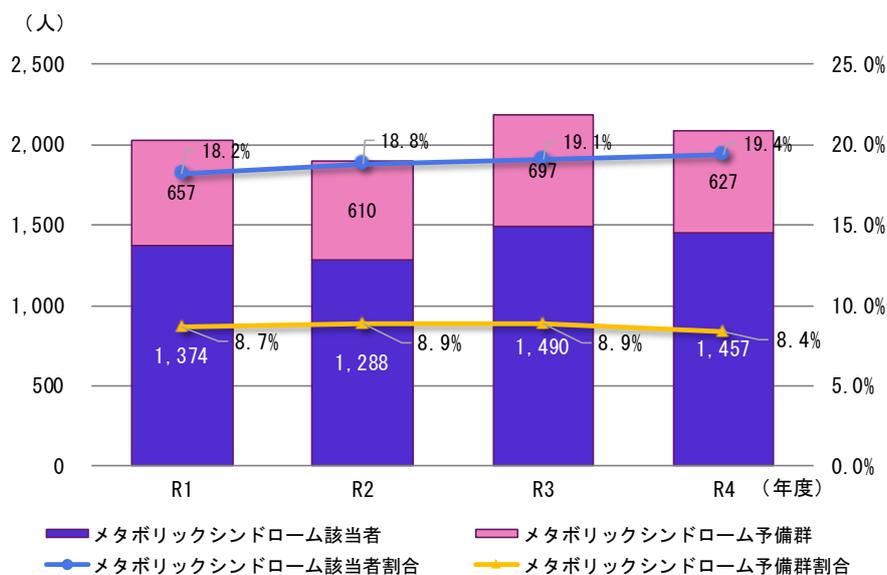


(4) メタボリックシンドロームの該当者

- ・市国保被保険者のメタボリックシンドローム該当者割合は、経年比較で微増しているが、同規模自治体、県、国に比べて低い状況にある。(図表 32・33)
- ・メタボリックシンドローム該当者は、年齢が上がるにつれて割合が高くなっている。(図表 34)

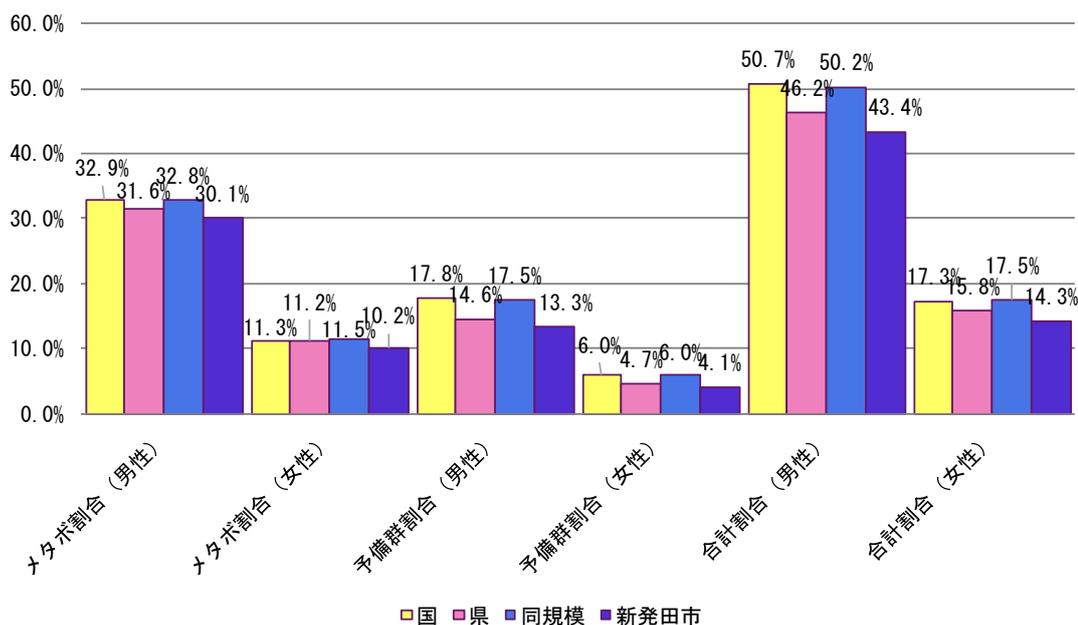
【図表 32】市国保被保険者のメタボリックシンドローム該当者数の状況（経年比較）

(出典：特定健診等データ管理システム「特定健診・特定保健指導実施結果総括表」R1～R4 年度)



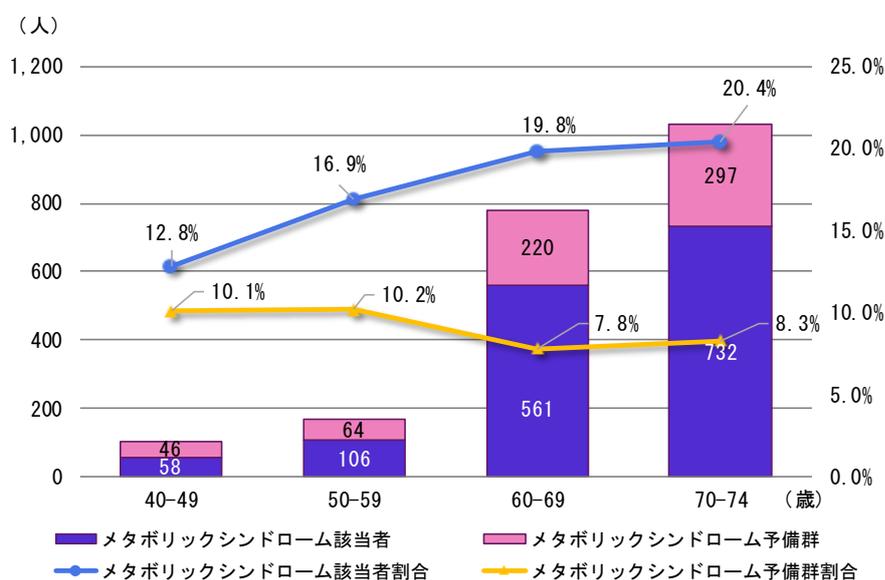
【図表 33】市国保被保険者のメタボリックシンドローム該当者数の状況（他団体比較）

（出典：国保データベース（KDB）システム 帳票 S21\_008 R4 年度）



【図表 34】市国保被保険者のメタボリックシンドローム該当者数の状況（年齢別）

（出典：特定健診等データ管理システム「特定健診・特定保健指導実施結果総括表」R4 年度）



(5) 生活習慣病治療と特定健康診査受診の関係性

①生活習慣病の治療放置の状況

・特定健診の結果、生活習慣病関連で受診勧奨があったにもかかわらず、医療受診が確認できない人は783人にのぼる。

【図表 35】市国保被保険者の治療放置の状況

(出典：国保データベース (KDB) システム KDB 帳票 S21\_024 R4 年度)

■ 健診異常値放置者の階層別人数 (人)

リスク 個数	リスク項目	特定保健指導 受診勧奨レベル	要治療レベル	要治療よりもさらに 高いレベル	合計
		【受診勧奨レベル】以上 【要治療レベル】未満	【要治療レベル】以上 【要治療高レベル】未満	【要治療高レベル】以上	
		【糖尿病】 空腹時血糖：126mg/dL以上又は HbA1c：6.5%以上 【高血圧症】 収縮期血圧：140mmHg以上又は 拡張期血圧：90mmHg以上 【脂質異常症】 中性脂肪：300mg/dL以上又は LDL：140mg/dL以上又は HDL：35mg/dL未満	【糖尿病】 空腹時血糖：140mg/dL以上又は HbA1c：7.0%以上 【高血圧症】 収縮期血圧：160mmHg以上又は 拡張期血圧：100mmHg以上 【脂質異常症】 中性脂肪：400mg/dL以上又は LDL：160mg/dL以上又は HDL：30mg/dL未満	【糖尿病】 空腹時血糖：150mg/dL以上又は HbA1c：8.0%以上 【高血圧症】 収縮期血圧：180mmHg以上又は 拡張期血圧：110mmHg以上 【脂質異常症】 中性脂肪：500mg/dL以上又は LDL：200mg/dL以上又は HDL：25mg/dL未満	
1	糖尿病	15	10	4	29
	高血圧症	192	45	13	250
	脂質異常症	211	106	14	331
2	糖尿病＋高血圧症	8	5	6	19
	糖尿病＋脂質異常症	11	9	3	23
	高血圧症＋脂質異常症	36	67	18	121
3	糖尿病＋高血圧症＋脂質異常症	2	4	4	10
合計		475	246	62	783

令和3年度の健診結果により、令和4年度の生活習慣病での医療受診が認められない人

基準値は、日本高血圧学会・日本糖尿病学会・人間ドック学会を参照し、3階層に設定

受診勧奨レベル以上のリスク項目が複数ある場合、リスク項目ごとのレベルを最も高いレベルに揃えてカウントする。

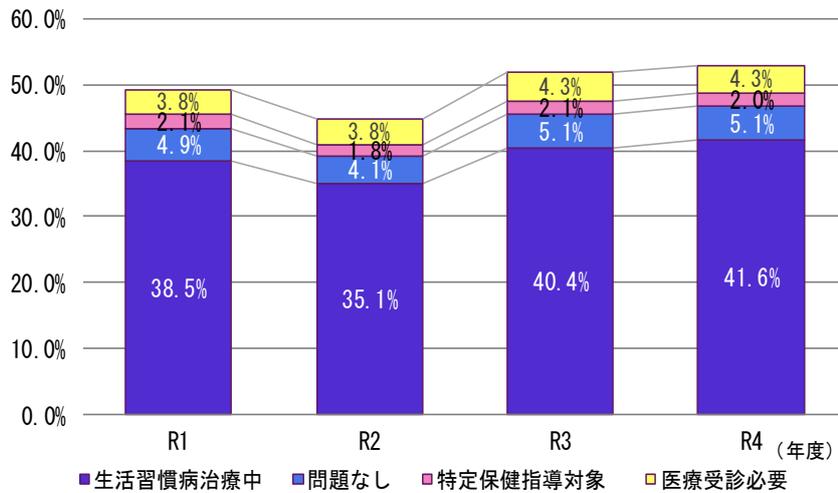
例) 糖尿病リスクが受診勧奨レベル、高血圧症リスクが要治療レベル、脂質異常症リスクが要治療高レベルのとき、要治療高レベルのリスク個数3としてカウントする。

②生活習慣病に係る健診受診と医療受診の状況

- ・令和4年度は、特定健診受診者で、医療受診が必要とされたにも関わらず生活習慣病関連で医療を受けていない人が4.3%いた。(図表36)
- ・特定健診は未受診であるが、生活習慣病の治療は受けている人が30%いた。さらに、健診も医療も受けていないために、健康状態の把握ができていない人が17%いた。(図表37)

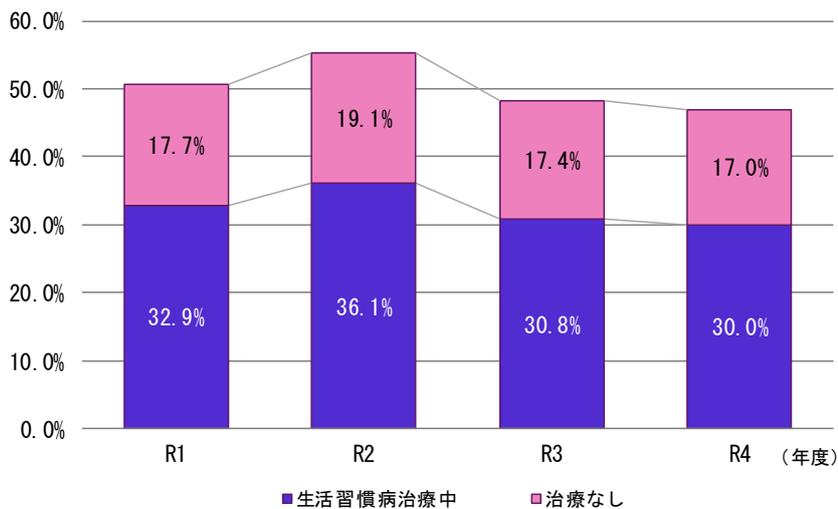
【図表36】市国保特定健診受診者の生活習慣病治療等の状況

(出典：国保データベース (KDB) システム 帳票 S21\_027 R1～R4 年度)



【図表37】市国保特定健診未受診者の生活習慣病治療の有無割合

(出典：国保データベース (KDB) システム 帳票 S21\_027 R1～R4 年度)



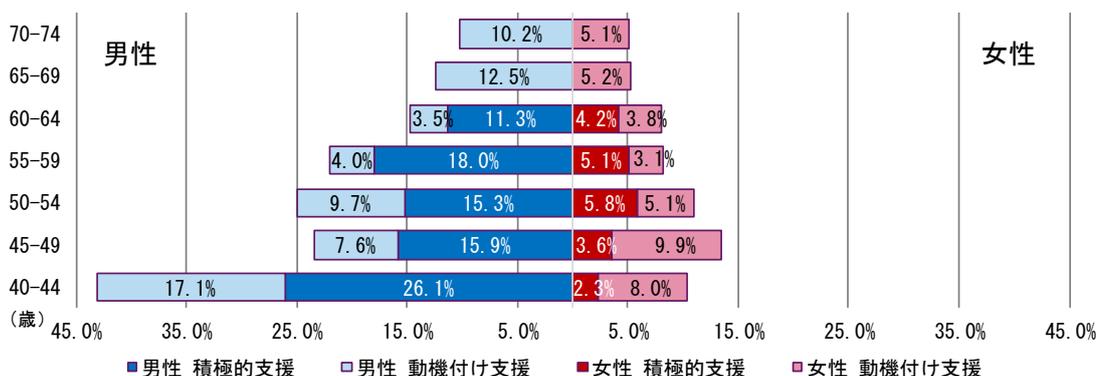
## 2 特定保健指導の状況

### (1) 特定保健指導の対象者

- ・ 特定保健指導の対象者は、各年代で女性に比べて男性が圧倒的に多く、40歳～44歳の積極的支援の該当者が多い状況である。

【図表 38】市国保特定健診受診者の特定保健指導対象者割合（年齢別・男女別）

（出典：特定健診等データ管理システム「特定健診・特定保健指導実施結果総括表」R4年度）



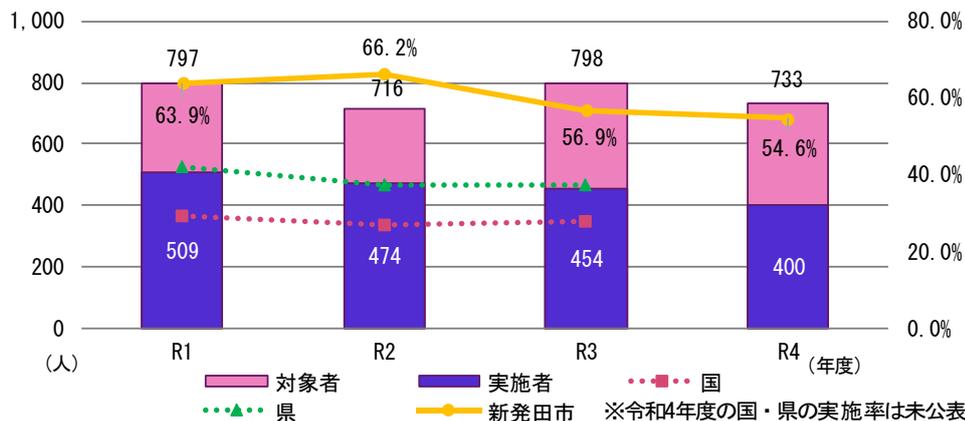
年代	男性 積極的支援		男性 動機付け支援		女性 積極的支援		女性 動機付け支援	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
40-44歳	29	26.1%	19	17.1%	2	2.3%	7	8.0%
45-49歳	23	15.9%	11	7.6%	4	3.6%	11	9.9%
50-54歳	22	15.3%	14	9.7%	8	5.8%	7	5.1%
55-59歳	27	18.0%	6	4.0%	10	5.1%	6	3.1%
60-64歳	35	11.3%	11	3.5%	19	4.2%	17	3.8%
65-69歳			116	12.5%			60	5.2%
70-74歳			173	10.2%			96	5.1%

### (2) 特定保健指導の実施者

- ・ 特定保健指導対象者は 700 人から 800 人の間で推移しており、実施率は低下傾向である。（図表 39）
- ・ 令和 4 年度の特定保健指導の実施率は、動機付け支援では、40歳～44歳の区分で 46.2% であるが、45歳以上の各区分では 60%台から 70%台となっている。積極的支援では、50歳～54歳で 40.0%であるが、その他の区分では 20%台と低くなっている。（図表 40）

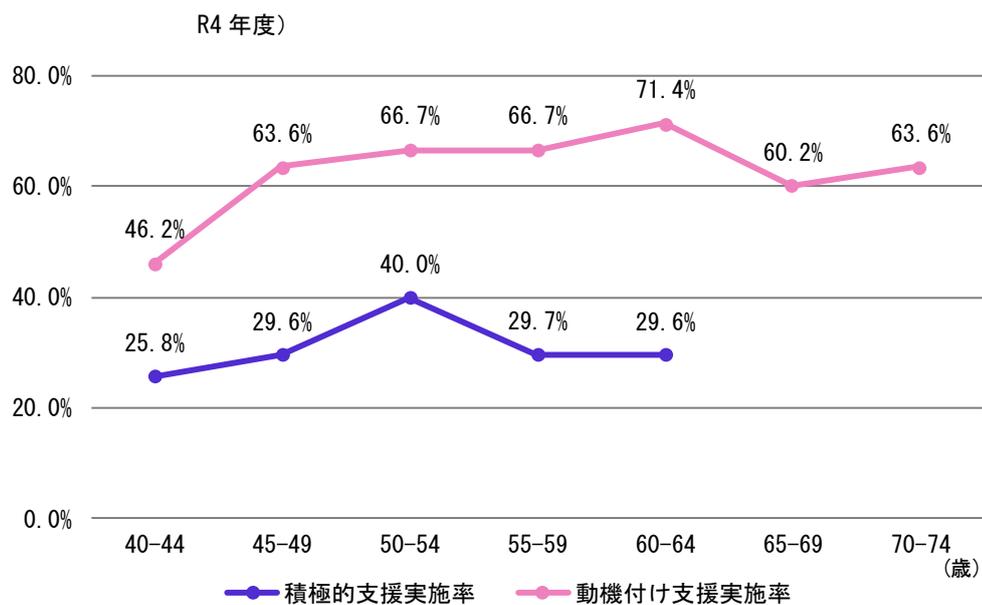
【図表 39】市国保特定健診受診者の特定保健指導実施率

（出典：特定健診等データ管理システム「特定健診・特定保健指導実施結果総括表」R1～R4年度、新潟県「特定健診・特定保健指導実施状況」R1～R3年度、厚生労働省「特定健康診査・特定保健指導の実施状況」R1～R3年度）



【図表 40】市国保特定健診受診者の特定保健指導実施割合（支援別）

（出典：特定健診等データ管理システム「特定健診・特定保健指導実施結果総括表」



年代	積極的支援			動機付け支援		
	対象者数(人)	実施者数(人)	実施率	対象者数(人)	実施者数(人)	実施率
40-44歳	31	8	25.8%	26	12	46.2%
45-49歳	27	8	29.6%	22	14	63.6%
50-54歳	30	12	40.0%	21	14	66.7%
55-59歳	37	11	29.7%	12	8	66.7%
60-64歳	54	16	29.6%	28	20	71.4%
65-69歳				176	106	60.2%
70-74歳				269	171	63.6%